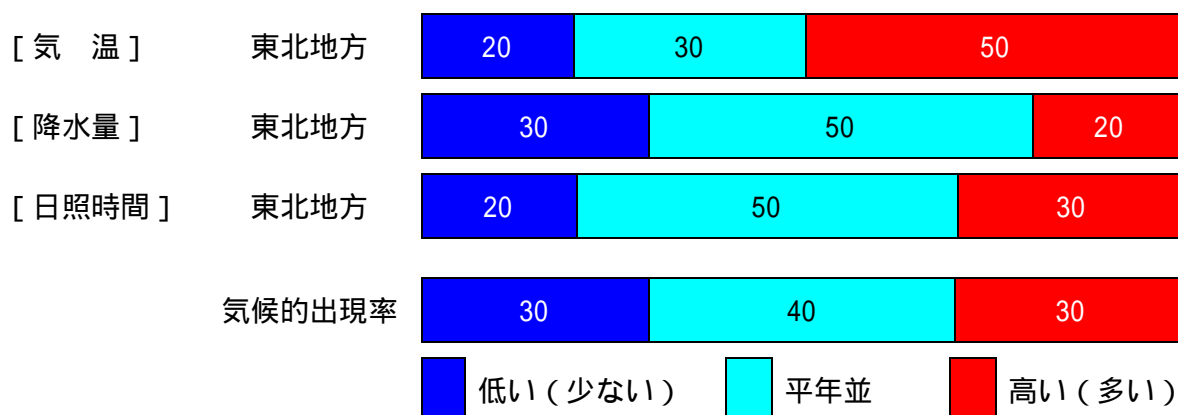


東北地方 1 か月予報の解説(予報期間: 6 月 12 日 ~ 7 月 11 日)

平成 11 年 6 月 11 日 仙台管区气象台

1. 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



[気 温]: 東北地方は「高い」可能性が大きく、その確率は 50% です。次に大きい確率は「平年並」で 30% です。「低い」確率は 20% と小さい。

[降 水 量]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50% です。次に大きい確率は「少ない」で 30% です。「多い」確率は 20% と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50% です。次に大きい確率は「多い」で 30% です。「少ない」確率は 20% と小さい。

2. 予想される天候の特徴(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう 1 か月

期間の前半は、天気は周期的に変化し、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

期間の後半は、梅雨前線の影響で、平年同様曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は「高い」でしょう。

各予報期間の天候の特徴

1 週目…………… 期間の終わりに天気の崩れるところがありますが、その他の日は曇りまた(6 月 12 日 ~ 6 月 18 日) は晴れでしょう。平均気温は高い見込みです。

(詳細は週間天気予報を参照)

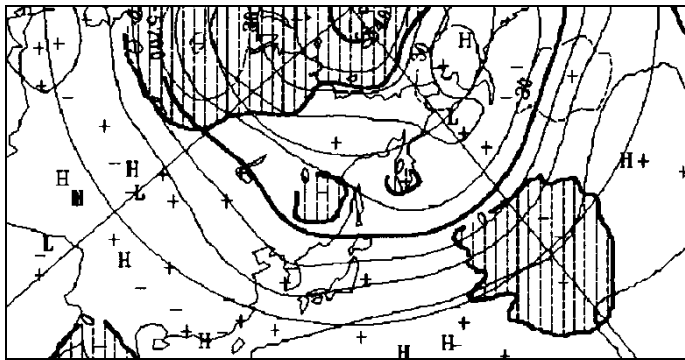
2 週目…………… 天気は周期的に変化し、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

(6 月 19 日 ~ 6 月 25 日) 平均気温は高い見込みです。

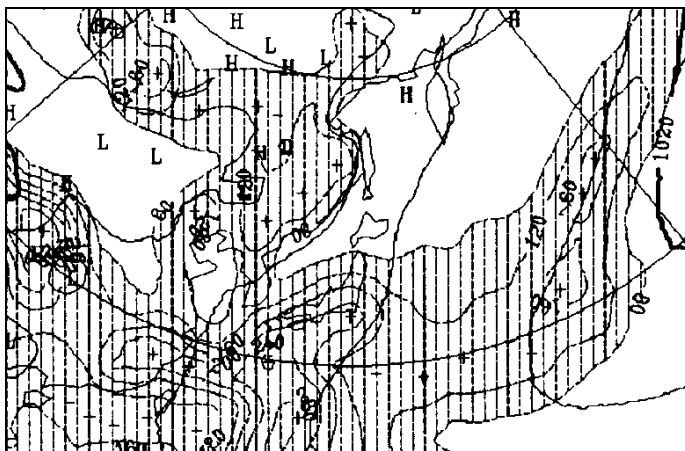
3 ~ 4 週目…………… 梅雨前線や低気圧の影響で、平年同様曇りや雨の日が多いでしょう。

(6 月 26 日 ~ 7 月 9 日) 平均気温は平年並の見込みです。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



月平均の500hPa 高度・偏差
(等高度: 60m 毎、偏差: 30m 毎、陰影部: 負偏差)



月平均の地上気圧と降水量
(等圧線: 4hPa 毎、降水量: 40mm 毎、陰影部: 80mm 以上)

・500hPa 高度・偏差

月平均では日本付近は広く正偏差に覆われている。太平洋高は平年に比べ強い。日本付近はやや西谷だがゾーナルな流れ、オホーツク海付近に弱い正偏差がみられるが、はっきりした高気圧はみられない。

2 週目（図略）3～4 週目（図略）では、日本付近は弱い正偏差に覆われ、ゾーナルな流れとなるが、信頼度は小さい。

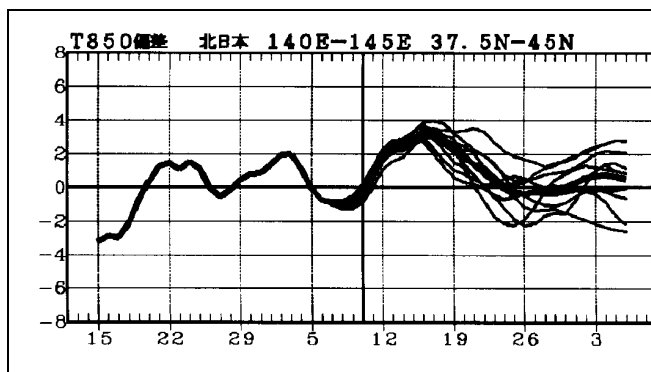
・地上気圧と降水量

月平均では、梅雨前線に相当して、日本の南岸にまとまった凝結域が見られる。南海上には熱帯擾乱に対応する凝結域もみられるが、期間の後半は精度が悪く、信頼度は低い。気圧配置には特徴はなく周期変化が基調。

2 週目（図略）の凝結域は日本の南岸が主体で東北地方への影響は小さく周期変化と考える。3～4 週目（図略）は、東北地方にかかるまとまった凝結量が計算されているが、信頼度は小さい。

3．北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温は、アンサンブルメンバーの平均でみると、一週目高く、その後、ほぼ平年並。ただ、1 週目後半からアンサンブルメンバー間のバラツキは大きくなり、期間の後半信頼度は小さい。



北日本 850hPa 高度（上空約 1500m）での気温偏差の実況と予想

縦軸：気温偏差（℃） 横軸：日付

発表日以降の細線は各アンサンブルメンバーの予想値、太線は平均値。

注）・資料の内容を他の要素により修正して予報を組み立てることがあります。

・850hPa の気温は、地上の気温と必ずしも対応しないことがあります。

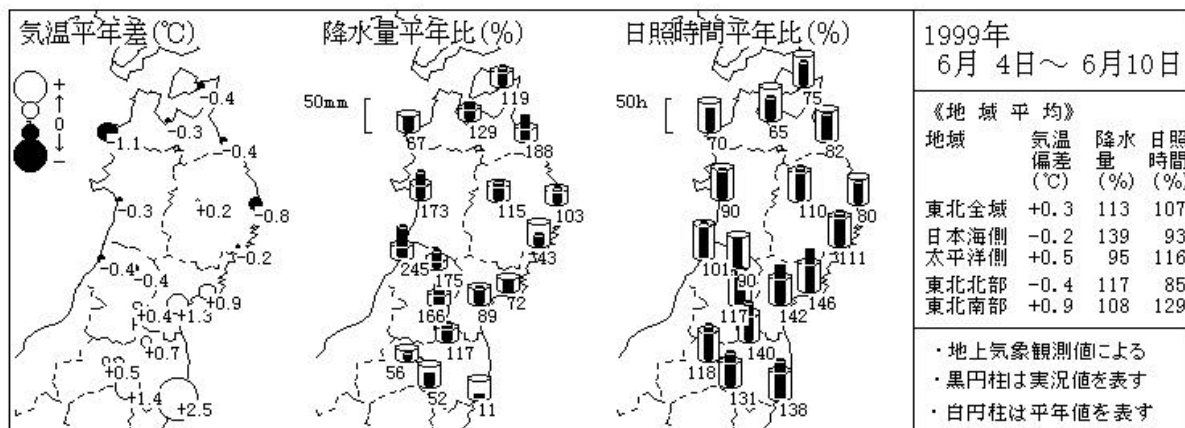
注：1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4．最近1週間(6月4日～6月10日)の天候の経過

この期間、北部はぐずついた天気がつづき、南部では天気は周期的に変化した。8日と9日には雷雨となるところもあった。

東北地方南部・北部および北陸地方が6月7日頃に梅雨入りしたと発表された。

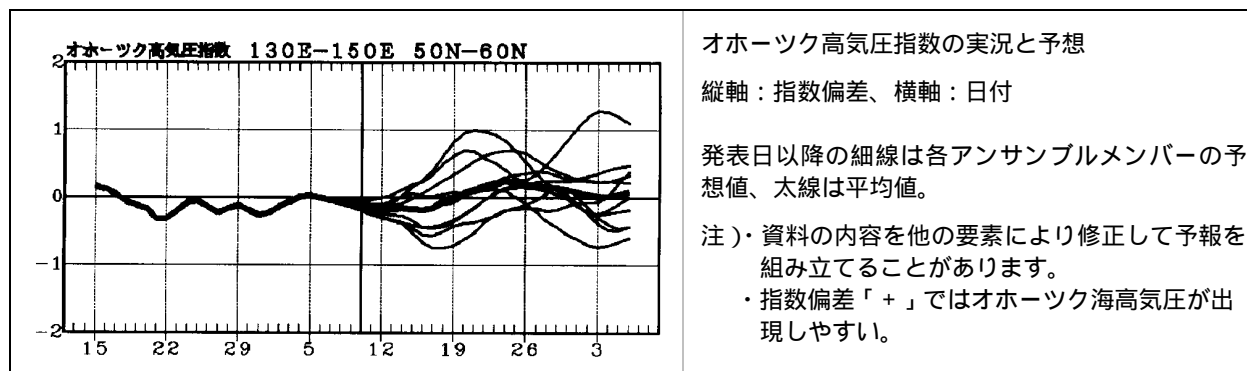
気温は平年並で、降水量は平年より多く、日照時間はほぼ平年並だった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)

5．その他

オホーツク高気圧指数は、アンサンブルメンバーの平均でみると期間を通してほぼ平年並。しかし、1週目後半からバラツキが大きく、信頼度は低い。



梅雨入り梅雨明けの時期

	今年の梅雨入り	平年の梅雨入り	昨年の梅雨入り	平年の梅雨明け	昨年の梅雨明け
東北南部	6月7日頃	6月12日頃	6月3日頃	7月23日頃	特定しない
東北北部	6月7日頃	6月14日頃	6月3日頃	7月26日頃	特定しない